主任介護支援専門員が行う肯定的なフィードバックを伴う教育的スーパービジョンの構造と関連要因

生活科学研究科 総合福祉科学コース 博士後期課程3年 羅 佩瑶

1025年11月22日 リゾーム研究交流会

キーワード:地域包括支援センター、主任介護支援専門員、教育的スーパービジョン、肯定的なフィードバック、スーパーバイザー、スーパーバイジー

◆目的

• 本研究では、<u>近畿地方の二府五県の主任介護支援専門員</u>が行う<u>肯定的なフィードバックを伴う教育的スーパービジョン</u>の構造を明らかにし、また、そのスーパービジョンの技能を高めるために、どのようなことが必要であるのかを明確にする。

◆本研究の用語について

- <u>地域包括支援センター</u>とは、市町村が設置主体となり、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等を配置して、 地域住民の心身の健康の保持及び生活安定のために必要な援助を行うことにより、保健医療の向上及び福祉の増 進を包括的に支援することを目的とする施設。(介護保険法第115条の46第1項)
- <u>介護支援専門員</u>とは、要介護者ができる限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を送るためには、適切な介護 サービスを利用できるようケアプランの作成及び関係機関との連絡調整などのケアマネジメントを行う者である。
- 肯定的なフィードバックとは、相手の強みなどを認め、前向きな伝え方で相手の成長を促す方法である。
- <u>ここでのスーパーバイザー</u>(以下,バイザー)とは、指導者をさし、<u>スーパーバイジー</u>(以下,バイジー)とは、 指導される者のことをさす。
- <u>教育的スーパービジョン</u>(以下、SV)(kadushin,2014)とは、バイジーが業務を効果的に行うことができるように、バイザーが、実践で必要な知識・技術・価値を伝え、ケアマネジメントに関する個人的な指導や事例検討などを通して、バイジーの能力を高めていくことをさす。
- <u>本調査では、「肯定的なフィードバックを伴う教育的SV」を</u>、以下の4つの行為と定義している。バイザーが、バイジーに対して、肯定的なフィードバックを行いながら、バイジーが実践で行ったことについて、①評価や承認を行うこと、②バイジーとともに実践の整理を行うこと、③バイジーが直面している課題や問題の解決策を引き出すために気づきを促すこと、④バイジーが専門職として成長していくための指導や助言を行うこと。

◆現段階の研究

肯定的なフィードバックを伴う教育的SVの変数構造

筆者作

独立変数

(11カテゴリー69項目)

- 基本属性
- SVにおけるバイザーのリフレクション
- 担当件数についての負担感
- 特定業務についての負担感
- 研修についての負担感
- 勤務外の対応についての負担感
- バイザーとしての自己アセスメント
- 優れたバイザーとしてのコンピテンシ
- 組織的な要素・専門的な要素・個人的な要素

先行研究に基づく関連要因

従属変数 (9因子40項目)

- 肯定的な評価
- バイジーのストレングスへの注目
- 情緒的なサポート
- バイジーの支援の情報整理
- バイジーの実践の振り返り
- 必要な情報の提供
- バイジーの気づきの促進
- 解決策のための助言
- 専門職として成長のための指導

肯定的なフィードバックを伴う教育的SVの定義 に基づく

◆研究背景

- ・ 少子高齢化の社会背景において、介護保険の利用者数が増えている一方で、<u>介</u> 護支援専門員の数が増加していない現状がある。(老健局, 2024)
- 厚生労働省(2024)の報告によると、主任介護支援専門員に最も求められるのは「他の介護支援専門員に対する指導・スーパービジョンを行うスキル」であり、人材確保やサービスの質の向上のために、SVが重要とされている。
- 地域包括支援センターの主任介護支援専門員は(2022)、支援困難事例など へのSVを通じて、介護支援専門員の経験値と力量を高める役割を担う。本研究 は、その後方支援における支持的SV・教育的SVに焦点を当てている。

◆ 研究対象者、方法

- 対象者:近畿地方の二府五県の地域包括支援センター(770ヶ所, 2025年11月 05日時点で)の主任介護支援専門員。
- 方法:<u>自記式質問紙</u>を用いた横断的調査を行う。統計解析では、<u>SPSSを用い</u>て分析を行う(因子分析、重回帰分析など)。

◆研究意義

- 研究結果は、介護保険法に定められたSVに関する主任介護支援専門員の<u>更新研修の参考資料</u>の一つとなることを目指している。
- 本研究の結果が与える影響については、
- ①バイザーが行うSVの一部の実践を明らかにし、<u>バイザーの力量育成</u>につながり、SVの実施に自信を持てるようになること、
 - ②介護支援専門員(バイジー)が支援を行う際の問題解決力の向上、
- ③介護支援専門員の確保とサービスの質の向上が期待される。

また、効果的な教育的SVの方法を示すことで、介護支援専門員の<u>離職防止</u>にもつながると考えられる。

◆本研究の限界と課題

本研究の限界として、調査対象者は近畿地方の二府五県の地域包括支援センターの主任介護支援専門員に限られており、地域・回答者特性が影響している可能性が考えられ、全国的な傾向として本研究結果を一般化することは難しいことが挙げられる。そのため、今後は調査対象者を全国の地域包括支援センターに拡大していく必要がある。

◆ 参老文献·

- ・原生労働省老婦目(2024)「ケアマネジャルに係る租件・課題」
- ・厚生労働省ホームページ「地域包括支援センターについて」
- ・厚生労働省ホームページ「主任介護支援専門員研修ガイドライン」 ・白澤政和 岡田進一ら(2022)『介護支援専門員現任研修テキスト 第3巻 主任介護支援専門員研修 第3版』中央法規出版株式会社
- •Kadushin A/Harkness D (2014) Supervision in social work fifth edition Columbia University Press, New York